

定例教育委員会会議録

(令和4年4月6日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和4年4月6日(水)

15時00分～

場 所 岡谷市役所2階 202会議室

署名委員 草間職務代理者、太田教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 令和4年度 岡谷市教育委員会基本方針について【資料 No.1】 (教育総務課)
2. 幼保小接続期連携アプローチ&スタートカリキュラム「おかや絹結プログラム」について【資料 No.2】 (教育総務課)

○ 報 告

1. 令和4年度教育委員会事務局職員定期人事異動について【資料 No.3】 (各課)
2. 令和4年度教育委員会予算について【資料 No.4】 (各課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

【次回開催予定】5月12日(木)9時30分～ 岡谷市役所6階 603会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課主査 新村 尚志

<会議録>

○開 会

岩本教育長：

開会に先立ちまして、この場をお借りして、私から一言ご挨拶をさせていただきますと思います。この4月1日より、教育長として、再任をさせていただきました。新教育長制度になって、3期目ということになりますが、これまで歩んできたことをしっかりと振り返りながら、またそこに新たな一步を踏み出していきたいと思っております。任期中、本当に教育委員の皆さんにはいつも支えていただき、適切な助言をいただきながら、教育行政を円滑に進められることを本当に感謝しております。今期もさらにそんな点を大事にしながら、ぜひお支えいただければありがたいと思っております。子どもたちのため、市民の皆さんのため、精一杯教育長としての職責を果たして参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

白上教育部長

それでは、会議に先立ちまして、私の方から4月1日付けの定期人事異動で昇格をされた職員及び教育委員会へ配属となった職員をご紹介します。

<昇格者・異動者の紹介>

岩本教育長：

今年新しくおいでになった職員の皆さんは大変やる気のある職員だと思っております。これまでと同様に教育委員の皆さんもいろいろな面でお世話になるところがあるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまより令和4年度4月の定例教育委員会を始めたいと思います。本日の署名委員は草間職務代理さんと太田教育委員さんをお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○教育長報告

岩本教育長：

はじめに、私から教育長報告をさせていただきます。

市立岡谷図書館の名物の一つでありますロトウザクラが満開となり、また、平福寺の住職の方とお話したところ、平福寺の桜も咲きだしているということで、いよいよ桜前線が岡谷市にもやってきたと思っております。そんな春の訪れとともに令和4年度がスタートしたわけでございます。

本日も何点か報告させていただきます。

最初に教育総務課関係から、本日、小中学校の入学式には委員の皆さんに分担して出席していただきました。

今年は小学校に332名、中学校に378名の新1年生が入学し、新たな学校生活がスタートしました。感染症対策のため、昨年と同様に参加者を減らし、短い時間での開催となりましたが、新1年生のきらきとした、初々しい姿が見られ、頼もしさを感じたところであります。

岩本教育長：

各校の様子はどうかでしょうか、
進級した在校生とともに、より良い学びと成長を保障できるよう、教育委員会も一丸となって学校を応援していきたいと考えております。
また、新型コロナが確認されてから3回目の1学期を迎えました。1月から続く第6波の感染者は高止まりの様相を呈しており、中々収束には至りませんが、引き続き、感染対策をしっかりと講じて、安全で前向きな学校運営に努めていきたいと思っております。

次に、3月定例会において、新年度予算が可決されました。教育委員会の新年度の主な事業を少し紹介させていただきます。

教育総務課関係では、新たに「学びの創生・連携支援室」を設置し、幼保小中をつなぐ、支援の連続性や、小中一貫教育などの検討を深めるほか、学校と家庭を双方向でつなぐ、通信アプリの導入などを進めてまいります。

生涯学習課関係では、子育て憲章制定20周年記念事業として、成長樹(期)子育て実践ポイントの見直しや、子育て講演会を開催するほか、成人年齢引き下げに伴う、二十歳(はたち)の祝賀式開催事業などに取り組んでまいります。

スポーツ振興課関係では、市民水泳プールの老朽化対策として、大規模改修工事を進めるほか、コロナ禍で不足しがちな運動のきっかけを作る、スポーツきっかけづくり事業などを進めてまいります。

その他の事業につきましても、積極果敢に挑んでいきたいと考えております。本年度も、よろしくお願いいたします。

私からの報告は以上であります。

○議 題

1. 令和4年度 岡谷市教育委員会基本方針について(各課)

岩本教育長：

本日の議題1「令和4年度 岡谷市教育委員会基本方針について」、事務局より説明をお願いいたします。

<資料1に基づき、事務局より説明>

ありがとうございます。ただいまの説明につきまして何かご質問ございましたら、お願いします。

草間職務代理者： この2年間のコロナ禍において、一番大きく影響を受けたのが、人との交流と活動機会を提供する生涯学習とスポーツだと思います。教育総務課ではオンライン授業というものがある程度、具体的に進んでおりますが、先ほど伊藤生涯学習課長がオンラインの活用ということをおっしゃっていましたが、具体的に生涯学習とスポーツの方で、コロナ禍において具体的に進めていく重点施策があれば、教えていただきたいと思います。

事務局（伊藤）： 生涯学習ですが、コロナというものが収束して完全に終わりになる可能性がない中で、どのような取り組みができるか、先日も社会教育委員の方からもご提案をいただきました。

今考えていることは感染対策の徹底をしっかりとやっていくことと、リモート環境整備の検討をしていきたいと考えています。

カルチャーセンターも公民館もWi-Fiが通っておりますが、それらをうまく活用しながら、止めない生涯学習というものを目指し、コロナ禍においてもリモートなり、Web会議が今盛んに行われている状況になりますので、市民の方々が気軽に使っていただける環境づくりを進めるためにハード面での充実を図ってまいりたいと思います。

草間職務代理者： 様々な場面での発表会などは、ある程度リモート等で行えば、安全にできる環境になってきていると思いますが、問題はスポーツですね。

実際に体を動かすとなると、なかなかオンラインというのは難しいと思うのですが、何か取り入れている方法はございますか。

事務局（小松）： 令和3年度のスポーツ大会や各スポーツ教室では、スポーツ大会が全部で57大会ありましたが、約40大会が中止の取り扱いになりました。

ただし、意外とスポーツ教室については、実施することが出来ました。その理由としましては、コロナの感染が広がっていた時に教室を中止しながら、コロナが収まった時に体育館の日程やいろんな施設の日程を上手にずらしながら、工夫して教室を開催することで、多少中止にはなりましたが、実施することが出来ました。

スポーツはマスクも外して行いますし、接触もありますので、なかなか開催するのは難しいのですが、その中で、施設側で行う感染対策について、スポーツ団体や指導者にしっかりと伝えながら、現在行っております。

先ほど説明させていただきましたが、働き盛りの世代の方の運動、スポーツの習慣化という部分では、コロナ禍で働き盛りの方について、運動不足の方がかなり多いと思いますので、そういった方を対象にした大人向けの教室を今回は新たに取り入れ、ランニング教室という形で計画してみました。

今後、コロナの状況を見ながら、募集をかけていきますが、教室にランニング専門のトレーナーを配置して、運動不足の解消につながるような指導をしていただき、習慣化につなげるという新たな取り組みを考えております。

草間職務代理者： コロナ禍ではありますが、ぜひ前向きな計画を立てて、実施していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

高木教育委員： 生涯学習課の公民館施設の環境整備について、災害対策ということでエアコンを全室に設置するということですが、公民館の施設は古くて、夏は暑いし、冬は寒いということではなかなか利用が進まなかったかもしれませんが、エアコンが入れば、快適になって災害時以外でも利用したくなると思います。せっかくエアコンを入れていくので、ランニングコストのことも考える必要がありますが、積極的に活用していただければと願っています。

ただ、公民館は登録した団体でないと使えないですね。社会教育法の縛りがあると思うのですが、もっと自由に使えるようにはならないのでしょうか。利用状況について、詳しく分からないのですが、公民館へ行って空いていれば、すぐ使えるのでしょうか。

事務局（伊藤）： 登録に際しては審査が必要になってきます。その方々が本当に大切に使用していただけるかという審査が必要になりますので、今の時点では、登録をしていただいて審査してからの利用になっております。

使いたい時には前もって、ご相談をいただき、使い勝手の良いようにしていきたいと思いますのでご相談いただければと思います。

高木教育委員： 市民の方に公民館はこのようなすれば、施設を使うことができるというお知らせをしていく必要があると思います。公民館は使いにくいから、他のすぐに使える施設を利用しようという方もいらっしゃるので、この機会にお知らせしていくのが良いと思います。

太田教育委員： 各課にそれぞれ質問させていただきます。教育総務課ですが、これからの時代に合わせたICT教育について今年度もさらに力を入れていくということで、資料に一人一人に個別最適化されたという箇所があります。私の認識では主にタブレット等も使いながら、共通のソフトを入れると思うのですが、一人一人に個別最適化されたという部分は具体的にどんな方向性、イメージで理解していけばいいでしょうか。必要なことだと思いますし、こういった機器を使う一つの強みだと思うのですが、具体的にはどんなイメージで推進されていくのでしょうか。

事務局（濱）： 1人1台の学習用端末がありますので、それを活用するイメージで、私どもも認識しておりますが、具体的にはそれぞれの端末にドリル等のソフトも入っておりますので、自分の学習の進捗に合わせながら、問題も選びながら、学習を進めていくのと、より習熟度を高め、学習の定着度を高める取り組みをしていくことになるとと思います。自分のペースに合わせた学習ができるということになります。

それから例えば、総合的な学習の時間等で、それぞれが自分の課題を持って、調べ学習をして自分の考えをまとめて発信していくような、それぞれの課題に合わせた学習という意味で個別最適化となります。

事務局（濱）： 単に動画を見る学習にしても、今までは先生が電子黒板に同じ動画を大きな画面で全員に見せるという学習でしたが、それぞれ自分の端末で自分が見たい動画を見ながら学習するということも可能になります。

そういう意味で、学校でも様々な活用がされると思いますので、私も学校を訪問して、一緒に学んで、端末のさらなる活用方法を探っていきたいと思います。

太田教育委員： ありがとうございます。そうすると、この最適化については使う側の子どもたちの主体性もポイントになってくるとと思いますので、その辺を上手くお伝えいただければと思います。

もう一点、スタンダードカリキュラムですが、これは岡谷の現在、それから未来の教育にとって非常に素晴らしい内容だと思っていますので、今年はそれをさらに進展させるということで方針に入れていると思います。ある程度、時間が経って、学校単位或いはクラス単位で非常に充実した内容で進められていると思うのですが、逆に進展という言葉の中にまだ課題が含まれているとも思います。今年度のことでもかまいませんので、今後より良くしていくための現時点での課題がどの辺にあると捉えているか、教えていただけますか。

事務局（濱）： 太田教育委員さんが今おっしゃったとおり、先生によって、学年によって、それから学校によって、取り組み状況に差があるという認識は私を含め、現場の先生、校長先生や教頭先生も持っているように感じております。

4月に入り、具体的に市内の小学校から今年は岡谷スタンダードカリキュラムに力を入れていきたい、総合的な学習の時間や生活科の時間の学びを充実させたいということで研修の依頼も来ておりますので、実践がより広まり、深まっていけるようこれからも学校を応援していきたいと思っています。

太田教育委員： 本当に内容が素晴らしいと思いますので、学校間の差がなくなるということは難しいとは思いますが、できるだけその辺の課題が克服されるようお願いしたいと思います。

続けて、生涯学習課になりますが、最後の文化財のことで、積極的な活用と保存とあり、活用されるということは非常にいいことだと思っています。例えば、以前に拝見させていただいた旧山一林組製糸事務所の絹工房もただ見るというだけでなく、実際にその場所を使って何ができるかという活用について、文化財にとって保存をしていくためにとても良いと思うのですが、他の文化財で何か今後活用をする、或いは活用できそうかという見通し、可能性みたいなものがある施設はありますか。

事務局（伊藤）： 今はコロナ禍ということもあって、過去に旧林家住宅等を使って、ひな人形の展示をやっています。また視点を変えながら、どんな活用ができるのか、模索しているところですので、コロナ禍の中で様々な事業をなかなか進められないというのが残念ではありますが、皆さんのご意見を聞きながら進めて参りたいと考えております。

太田教育委員： コロナ禍にあるので、なかなかすぐというわけにはいきませんが、もしかすると市民から活用のアイディア、施設をこのように活用したいという人がいるかもしれませんので、日常的に通年で使用できるなんてことになれば、保存活用や価値を知っていただく上で非常に役に立ってくると思いますので、ご検討いただきたいと思います。

もう1件、スポーツ振興課の方で先ほど草間さんからもお話あった部分で、生涯学習課はオンラインという話がありましたが、スポーツ振興課の方も、なかなか施設に行って運動するということができない層にとってはもしかしたらオンラインは非常にチャンスになると思っています。今シルキーチャンネルでやっている方もおりますが、YouTubeで動画を流して、それを見ながら、それぞれの人が家でその時間だけ運動するみたいなことがものすごく増えているという話を聞きます。

わざわざ会場に行かなくても、これを見れば1日15分家で実践すれば、身につきます！ということもぜひ考えていただければ、より広く岡谷の皆さんに浸透する可能性も出てくると思いますので、ご検討いただければと思います。

事務局（小松）： 今、施設管理しているシンコースポーツさんでYouTubeの動画を以前流していただいたこともございます。スポーツ振興課でも動画を見て、すぐに運動ができるというのではありませんが、スポーツ振興という観点で、いろいろなニュースポーツの紹介や少人数でこういうものができるといった紹介を定期的にしておりますので、今後どんなことができるか、検討してまいりたいと思います。

小平教育委員： 公民館の整備ということで、老朽化しているところが多いので、大変ありがたいと思ったのですが、今日も長地小学校の入学式に行った際に、校長先生とお話しまして、その時に長地小の放課後の居場所づくりはかなり登録人数が多く、100人以上が皆勤賞だったという話で本当にすごいと思いました。地域に熱心な方がいらっしゃったようで、いろんな部門で体育館を使って可能だったということでした。また、区長さんとお話する機会があり、コロナ禍で部活ができない、運動ができないという子どもたちがいて、ストレスがたまっているということで、区民センターを子どもたちに貸し出したという話を聞きました。

質問ですが、区民センターと公民館というのは全く別の運営ということでしょうか。

事務局（伊藤）： はい。区民センターは各区で運営しているものになります。

小平教育委員： 整備の件ですが、美術考古館にはWi-Fiがついていないようですが、今後整備する予定はないですか。

事務局（伊藤）： 今のところ、整備の予定はないですが、様子を見ながら考えていきたいと思っています。

小平教育委員： もちろん、優先順位があると思いますが、作品を出展させていただいたときに様子を拝見して、市民の方や学校で利用がしっかりされていると感じました。

あと岡谷学の地域人材の育成に関して、美術考古館にある土器を発掘した林先生からお話を聞く機会がありまして、お話を聞きながら、本当にこれらの土器を全て発掘したんですね！と大変盛り上がりました。そういう方が地域にいるのは素晴らしいことだと思いますので、このような事業に関わって下さる方が増えると良いと思います。

この岡谷学の地域人材の育成について、具体的にどのような内容の計画になっているか、説明をしていただけますか。

事務局（伊藤）： 今までも岡谷学というものがあつたのですが、今度は人材育成に焦点を当てて、岡谷のことを市民の皆さんへお伝えすることが出来る人材を育てたいという思いがあつて、今までの事業にその部分を加えて、新規事業として挙げております。1講座、3回セットになっており、年間2講座やる予定になります。

講座の内容は今、検討している最中ですが、決まり次第、教育委員の皆さんにもお知らせしたいと思います。

講座の内容は考古の関係については、今年は難しいかもしれませんが、シルク関連など、分野を決めて、座学だけではなく外に出て勉強し、案内ができる人材の育成ができれば良いと考えております。

小平教育委員： 今年はシルクをテーマにすることは決まっているんですね。今から楽しみにしております。皆さん、いろいろ知りたいという学習意欲がある方が多いと思いますし、その知識がその先に地域の役に立てるとするのは良いモチベーションになると思います。

あと、スポーツ振興課ですが、ランニング教室は面白いと思いました。場所は市民総合体育館のトレーニングルームのスペースでやるということですが、具体的にどこを走るのか、体育館の周りやランニングマシンで行うイメージですか。

事務局（小松）： 前にある湖畔広場ややまびこ公園が考えられますが、場所については専門のトレーナーにお任せをしております。主に屋内ではなくて屋外ということ考えております。

早く走るというよりも継続してもらうことに重点をおいて、習慣化してもらって、運動不足の解消をしてもらうというのが狙いにあります。働き盛りで運動不足の方で、初めてランニングするような方をターゲットに集めたいと思いますので、周知方法等も工夫したいと思います。

小平教育委員： 私の周辺の方たちもそういう方が多く、ほんのちょっと、運動することで健康状態が変わるにもかかわらず、できない、続かないということがありますので、このような講座を通じて後押ししてもらえるのはすごくありがたいと思います。この世代にターゲットを絞ったランニングというのは良いアイデアだと思いました。

小平教育委員： あと、「おかやキッズ運動大好き事業」の内容はどういうものか教えてください。

事務局（小松）： 運動が苦手な子どもたちに運動の楽しさを知ってもらう教室です。受講者の子どもたちには達成したい目標を設定してもらいます。例えば、鉄棒ができるようになりたい、もっとボールを遠くに投げられるようになりたいなどの目標を設定してもらい、指導者がその目標の達成に向けて、楽しく体力アップや体の動かし方を教えるという事業になります。
人気のある講座でして、毎年大勢の方に受講していただいております、保護者の方からも好評であります。

小平教育委員： この事業は今2年目ですか、それとも3年目ですか。

事務局（小松）： もう少し前から始めているかと思います。

小平教育委員： 子どもたちの苦手な部分をサポートするということですね。すごく良い取り組みだと思いますので、今後もぜひ続けていただきたいと思います。

藤森教育委員： 教育総務課の関係から質問させてください。

四つの重点項目が掲げられており、3番目のところに「高等学校以上の教育との連携」とあります。これは幼保小中接続期の教育連携のことだと理解しているのですが、この後議題に出ている幼保小接続連携のおかや絹結プログラムに関して、基本方針の中に見当たらないように思いました。

先般の定例教育委員会の中でいろいろご説明いただき、議論させていただいて、今日プログラムという形になって出てきたものだと思います。

これは非常に画期的なプログラムであり、岡谷市の教育行政の中で大きな特色の一つになっていくと思っておりますが、この基本方針の中に盛り込まれていない理由があるのか、或いはこの中で実際に盛り込まれている箇所があるのか、教えていただきたい。

事務局（両角）： 今回の重点項目の中の二つ目に「豊かな学びと支援の連続性の構築に向けた取り組み」がまさに幼保小中の連携について、文面化したものになります。具体的におかや絹結プログラムは個別の取り組みになってしまいますので、それよりも一つ上の括りとして、このような記述をしております。

ここで設置しました学びの創生・連携支援室とおかや絹結プログラム、こちらは後ほど議題に予定しておりますが、これらをまとめて、この重点で取り組んでいきたいと思っております。

藤森教育委員： ありがとうございます。ただいまの説明で理解いたしました。

あと一点、今年の市民プールの大規模改修ということで、予定をいただいております。私も水泳協会に所属しておりますので、大変ありがたいと感じておりますが、こちらの施設の建設が昭和56年ですかね、かなり老朽化が進んでいる古い建物ということで、今回改修をやっていただけないということで理解しております。

老朽化に伴う改修というのが一番の目的だと思いますが、ここ数年はコロナの問題でインドアのプールということもあり、更衣室や保護者の方が観覧する上の場所など、感染リスクが高いという話が出ています。今回の

改修の中で、感染症対策についても将来的に長い目で見て行かなければいけないと思いますので、そういった点について、検討している点がありましたら、教えていただけますか。

事務局（小松）： 今回、更衣室の換気扇の機能向上になる工事を考えております。そのほか、水泳協会では感染警戒レベル３以下でないと大会や教室等を開催しないという慎重な対応をしていただいております。現在、屋内プールは開館しており、感染対策という点については、消毒を各所に設置し、徹底してもらう。保護者の方に対しては、観覧席で見学する場合はきちんとマスクをしてもらうための周知を徹底し、館内に張り紙をするなどの対応を考えております。

工事の内容としましては、換気扇の機能の向上というところを考えているところです。

藤森教育委員： ありがとうございます。更衣室の天井も低くて狭い上、古い建物の構造上、仕方ないと思っていますので、換気扇をつけていただくだけでもありがたいと思います。プールには塩素が含まれており、腐食しやすいところがあるため、老朽化の加速につながる部分がありますので、非常にありがたいと思います。

立場は違いますが、水泳協会としましても、貴重な施設ですので、いろんな感染対策をしながら、全県レベルの大会を開催できるように共に考えていただけるとありがたいと思います。よろしくお願いします。

岩本教育長： ありがとうございます。それぞれの課に質問やご意見をお寄せいただきました。さらに内容については、今のご意見等を取り入れながら、より良い案を考えていきたいと思っています。

市民の皆さんにこれを見ていただいたときに市民目線での文言等の修正について、何かわかりにくい表現やここは文言を変えた方がいいというところがありましたら、教えていただきたいと思います。

藤森教育委員： ICTという言葉についてはかなり定着しており、認知されていると思うのですが、ICTとなるといろんな機器があると思うのですが、例えばタブレット端末やパソコンなどを説明につけ加えてもらうと、もう少しこういった機器を活用してやるというイメージがつくと思います。私たちはICT、ICTと使っていて、何となく理解はできているのですが。

事務局（両角）： ありがとうございます。こちらの想いとしですと、ICTが非常に大きな範囲になるというのはおっしゃるとおりですが、学校にある様々な機器、大型の投影機やカメラなども使っております。いろんなものを使って、学びをしているというのがありますので、パソコンやタブレットだけではないという意味合いも含めて、使わせていただきたいと思います。

岩本教育長： 他によろしいでしょうか。

それでは、今年度はこのような内容で教育委員会の基本方針としてお示しをさせていただいたわけですが、議題としまして、令和４年度岡谷市教

岩本教育長： 育委員会の基本方針について、教育委員会として承認してよろしいでしょうか。

＜承認＞

はい。ありがとうございます。今いただいた意見について、さらに検討を加えて、正式なものにする時に若干文言等の修正等もあり得るということで、お認めをいただきたいと思います。よろしくお願いをいたします。

続いて議題の 2「幼保小接続期連携アプローチ&スタートカリキュラム『おかや絹結プログラム』について」を議題とさせていただきます。
それでは、事務局より説明をお願いいたします。

2. 幼保小接続期連携アプローチ&スタートカリキュラム『おかや絹結プログラム』について
(教育総務課)

＜資料 2 に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長： ありがとうございます。前回の定例教育委員会でもプログラムについてご協議をいただいておりますので、どうしてもここだけは聞いておきたいということがありましたら、お願いします。

小平教育委員： 資料の 12、13 ページに 4 月と 5 月までの取り組みが掲載されていますが、このプログラムはこれでお終いということですか。それとも、このような内容で 1 年間取り組んでいくのか。

その上でクリアしたものについては、チェックしていくのでしょうか。

チェックをした方が良くと言っているわけではなく、先生の負担になったり、混乱することもあるのかなと思いましたので。

事務局（両角）： 5 月の中旬までということですが、入学してからこの時期までに小学校で不適應になるお子さんが多く、対応する必要があり、特に学校の先生においては、新任の先生、ベテランの先生でそれぞれ経験値が異なる場合がありますので、まずは 5 月までとして、無事にスタートを切っていくためのプログラムということで作り上げております。

5 月以降については学校の方で、1 学期 2 学期という形で当然、普通の学校運営がなされていきますので、今回は小一プロブレムというところに特化をさせていただいて、保育園、幼稚園から学校に入学して、学校の環境にまだ慣れない時にどういう視点で、学校側も取り組んだらよいか、共有化を図る物差しを作ったというものになります。

高木教育委員： 資料 26 ページの「週単位表」について、学校で毎週、次の週の計画を立てていると思うのですが、各学校・各学年でこれを毎週作成していくということですか。それとも、5 月まで見越して先に立てていくのですか。

あと、資料 14 ページのカリキュラム表ですが、このカリキュラム表は各保育園でそれぞれ作成して、これだけのカリキュラムを実施しましたと

高木教育委員：　　いう事で学校へ上げていくのですか。

そうすると、先生方もそれに全部目を通さなければいけないということになってしまうので、とても大変だと思います。

この内容からすれば、きっと「つなぎシート」があれば良いと思います
がその辺をもう少し詳しく教えてください。

事務局（両角）：　個別のカリキュラムはまさにこういう視点で取り組んでいくためのものになりますので、各園から個別に一個ずつ作り上げていくというのではなく、高木委員さんがおっしゃったとおり、やり始めてしまうと負担に
しかありませんので、「つぎなシート」に学校期を見据えた保育園、或いは幼児期の活動の記録をしていただきたいというものになります。このシートで活用していくのがベースになります。

学校に入学してからの部分は、担任の先生たちが普通に作っていくものですが、新任の先生や1学年の担任を持ったことがない先生はその時にどんな視点でその新しい子たちを迎えれば良いというノウハウの引き出しがまだ足りないので、こういう視点で取り組めば良いという参考にしていただいて、自分のものにしていきたいと思います。

高木教育委員：　　各園、各学校で作成していただくというよりはモデルになるものを教育委員会で作成してお示しするということですね。了解しました。

太田教育委員：　　ここまで詳細にきちんとデータを作成することは大変な労力だっただろうと思いますので、改めて敬意を表したいと思います。

今回の絹結プログラムの取り組みというのはあくまでも一つの園とその対象となる学年の子どもたちの集団をつないでいくものだと思っています。

もう1度確認になりますが、集団としてつなぐことに加えて、やはり最終的にはどうしても個別という部分が出てくると思います。この集団としてつなぐ絹結プログラムと個別のものを繋いでいく部分との関係性や方法について、確認をさせていただきます。

事務局（両角）：　例えば、幼児期から入学を控えた時期について、それは就学支援の関係になってくると思います。既に子ども総合相談センター中心にノウハウがあり、脈々と続いておりますので、小学校に入学する際に気になるお子さんに対する支援方法はシステム化されている状況です。

今回のアプローチ&スタートカリキュラムは普通の子であっても、入学時のギャップなどにより学校に上がってきて適応できなくなってしまうことがあることから、それを防ぐためのものということになります。どこかでは繋がる場所もありますし、繋がらない部分もあると思います。

事務局（濱）：　　補足させていただくと、資料24ページにつなぎシートの様式がありますが、この色のついた枠内の5つ目の点に、主に全体的な子どもの姿を記述し、特に気になる子どもの様子があった場合には個別にお知らせいただく形をお願いしておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

太田教育委員：　　はい。ありがとうございました。

草間職務代理者： これは岡谷市独自のものすごい力作で一番の点は、児童生徒が長期欠席になる最初の傾向を見せるのが小学校1年生であるという原因に基づいて、作られているということで大変効果的であるであると思います。

それで結局、1年生だけでなく、2年生、3年生と追跡していかないとこの子どもをフォローしているということにならないと思うのですが、今、カリキュラム推進委員会というものがありますよね。この委員会は令和4年も形を変えて継続して委員会をやっていき、1年生が入学してからこのように成長したという結果を報告するような委員会になっているんでしょうか。

それともう一つ、岡谷市立保育園はいいですが、私立の幼稚園、保育園にはどのように進めていくのか、岡谷市の子どもたちに同じ教育を受けさせてあげたいという気持ちがあるので、その辺もお聞きしたいです。

事務局（濱）： 推進委員会については、名称を「岡谷絹結プログラム推進委員会」に変えて、本年度も実施する予定になっております。各園、各校の実践の様子をお聞きしたり、このプログラムの改善点について協議をする委員会になっていくと思います。

それから私立の保育園・幼稚園については、園長と小学校の校長先生の連絡会等もございまして、その場でこの絹結プログラムもお示しさせていただいているので、プログラムの存在については私立の保育園、幼稚園の園長先生もご存知だと思っております。

事務局（両角）： 幼保小については園長先生と校長先生の懇談会を毎年定期的に行っており、その中でこのようなプログラムを作っているという情報を共有しております。

ただ、私立の幼稚園や信学会さんの認定こども園などがございしますが、運営されている法人の建学の精神や保育の理念がございしますので、これを岡谷市として、進めていきたいと思いますが、まずは理解をしていただき、繋がりを深めていきたいというスタンスで、このプログラムを活用していただくようお願いをしていく進め方を考えております。

草間職務代理者： 私立の幼稚園等の代表を誰か一人委員会に入れていただいて、オブザーバーとして参加していただくなどはどうですか。

事務局（両角）： はい。そちらも選択肢の一つになると思っていますので、検討させていただきます。

草間職務代理者： これは本当に素晴らしい取り組みだと思しますので、よろしくお願いします。

岩本教育長： 今いろいろな話が出ていますが、これは保育園の現場の先生方、小学校の現場の先生方の声をもとにして、推進委員会で作成したものであります。ですから、作って終わりではなく、これからがスタートになります。

そして、先ほどこれがモデルであるという話がありましたが、まさにモデルであって、それぞれの園や小学校でもいろいろな特色ある取り組みというものをやっていただいておりますので、これを基にしながら、さらに特色ある活動につなげていただく。

岩本教育長：

そして、逆に自分たちが日々やっている活動をここに書いてあるような子どもたちを育てる大事な視点で考え合わせていただきながら、さらに活動を深めていただくという意味で、非常に意義があるものだと思います。

草間委員がおっしゃったように、不登校の子どもたちというのは全国的にも岡谷市でも非常に多いです。さらにコロナ禍によって、さらに不登校が増えていくのではないかと大変危惧しているわけですが、このプログラムがそれに対応する一つの画期的な支援の手だてになるのではないかと考えています。

小一プロブレムということで、不登校の原因になるのは低学年の時から、休みがちになり、低学年の時に10日以上休んでしまうと、そのまま不登校に繋がっていく可能性が高まります。或いは学校不適應についても、低学年の時に起こってしまうとそこからなかなか抜け出せないことがあるので、それを防ぐためにも、本当に就学前から就学時の両方で力を合わせて、この小一プロブレムも無くしていく。そのための大事なプログラムであるというご理解をいただけるとありがたいと思います。

そして、このプログラムはその時の状況に応じて、どんどんと改良をしていきたいと思っています。これはスタンダードカリキュラムも同様になります。固定的ではありませんので、柔軟にその時その時で実践を積み重ねて、より良いものにしていくプログラムでありますので、園の規模や先生方の状況、いろいろなことを総合的に勘案する中で、うちの園であれば、こんなことが出来るといった前向きに捉えていただき、取り組んでいただきたいと思っています。これは小学校も同じです。そういった形でこのプログラムを活用して、最終的には上手に接続期を乗り越えていって、希望と夢を持って小学校の生活を送ってもらう。それがひいては、人生に繋がっていくと思っていますので、大事にしていきたいと思います。

きっと、教育委員の皆さんもプログラムを丁寧に読んでいくと、ここはこんなふうにした方がいいんじゃないかということがきっと出てくると思います。

これはまだ完成形ではありませんので、今年度の推進委員会等で検討しながら、必要などころはどんどん改良してやっていくつもりですので、今日の時点ではこれで良しとしていただいて、教育委員会としてお認めいただくということによろしいでしょうか。

<承認>

はい。ありがとうございます。

藤森教育委員：

すいません。教育長先生が今まとめていただき、私もすごく良いと思っています。今の教育長のお話を聞いて本当に素晴らしい理念になっていると思いますが、1つだけ教えてください。

藤森教育委員： 岡谷市では皆さん忙しい中でプログラムを策定されておりますが、長野県内の近隣の市町村の教育委員会で、同様の取り組みはされているのか、知識として知っておきたいと思います。

事務局（両角）： 承知はしていませんが、他県の状況からいきますと、このようなアプローチ&スタートカリキュラムではなく、ガイドラインのようなものを県レベルで策定している自治体が多いです。

これは学習指導要領と保育所保育指針の中に、幼稚園は学習指導要領になりますが、それぞれに幼保小接続期の繋がりについて、同じ視点で全て書かれていますので、どの自治体でも取り組まなければならない課題になります。その取り組みの一つの答えとして、岡谷市では、こういうプログラムになったということで、県内の他市町村ではまだここまでのものは少ないと思います。

藤森教育委員： ありがとうございます。それを聞いて、安心しました。

一歩先の教育行政を進めていただいております、前回の定例教育委員会でも申し上げましたが、これから少子化時代の中で子育て世代への支援の充実というのが、人口流入に繋がっていく可能性を持っていると思います。

教育長先生がおっしゃられたようにPDCAを回す中で私どももお手伝いさせていただきますので、さらに充実したものにしていきたいと思えます。

岩本教育長： ありがとうございます。繰り返しになりますが、これをスタートとして、私たちも積み重ねながら本当に良いものにしていき、育てていくというのが大事だと思っています。

おかげさまでスタンダードカリキュラムも育ってきております。二つのカリキュラム、実際にはプログラムとカリキュラムになりますが、学校現場で当然のように活用される環境を教育委員会として応援してともに作っていききたいと思いますので、よろしくお願いします。

それではこの議題は以上とさせていただきます。

○報 告

1. 令和4年度教育委員会事務局職員定期人事異動について（各課）

岩本教育長： それでは、報告事項に入りたいと思います。報告事項の1「令和4年度教育委員会事務局職員定期人事異動について」、事務局より報告をお願いいたします。

<資料3に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： よろしいでしょうか。続いて、報告事項の2「令和4年度教育委員会予算について」、事務局より報告をお願いいたします。

2. 令和4年度教育委員会予算について（各課）

＜資料4に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長： 各課の主要事業でございますが、今年度はこのような内容で取り組んでいくということになりますので、ご覧いただき、ご意見をいただきたいと思います。内容についてはよろしいでしょうか。
ありがとうございます。

それでは、次に【その他】ということで事務局よりお願いします。

○その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

岩本教育長： 事務局より説明がありましたが、何か、ご質問等ございますか。
よろしいでしょうか。

太田教育委員： 4月21日の市町村教育委員会連絡協議会は私たちも出席するという
ことでよろしいでしょうか。

事務局（両角）： 21日は教育長と草間職務代理のみ出席となりますので、お願いします。

高木教育委員： いろいろな行事等が感染警戒レベル4以下にならない限りは、ほとんど
中止と考えるしかないということですか。

事務局（伊藤）： はい。今、感染警戒レベルが5で、レベル5の内は市の主催事業につい
ては、全て中止または延期で対応しています。今のところはそのような扱
いになります。

岩本教育長： 他に教育委員の皆さんから意見等ありますか。よろしいでしょうか。
それでは、事務局より次回の開催予定についてお願いします。

事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は令和4年5月12日（木）9時30分から、岡
谷市役所6階603会議室で予定しておりますので、よろしくお願いしま
す。

岩本教育長： それでは、以上で本日の議事等終了いたしました。ありがとうございます
した。

16時30分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 4年 5月 12日

教 育 長 長本博行

署 名 委 員 草間吉幸

署 名 委 員 太田博久

調 製 職 員 白上 淳